

2013 年度 活動報告書

# アフリカンキッズクラブ

～大きい子も、小さい子も、ちょっとずつアフリカン～

平成 25 年度子どもゆめ基金助成事業

(特定非営利活動法人)アフリカ日本協議会 アフリカンキッズクラブ運営メンバー



## ～目次～

1. アフリカンキッズクラブ(発足の経緯、在日アフリカ人の統計的現状、活動の方向性の変化)
2. 2013 年度を振り返って
3. 活動報告
4. 在日アフリカ人家族の生活を考える会
5. 2014 年度の方向性

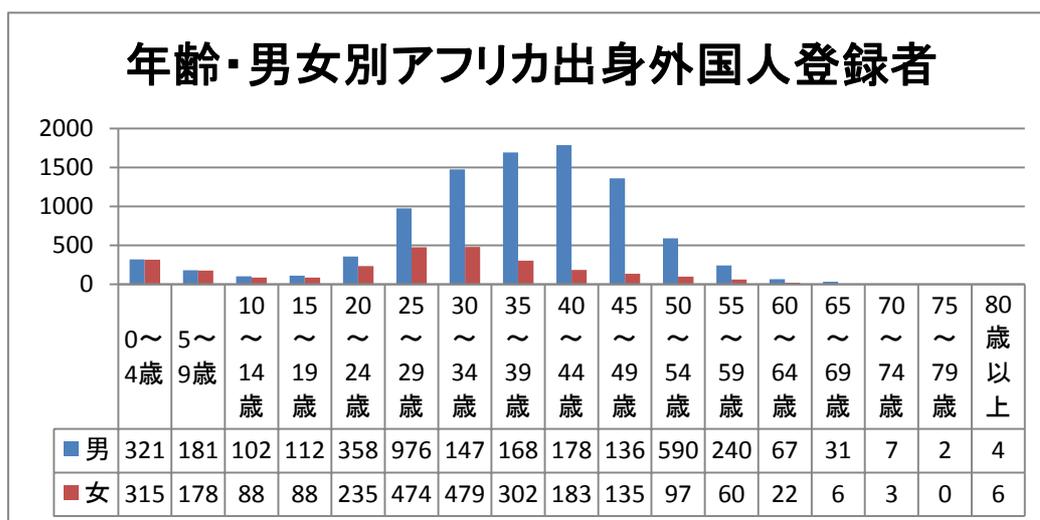
# 1. アフリカンキッズクラブ

## a) 発足の経緯

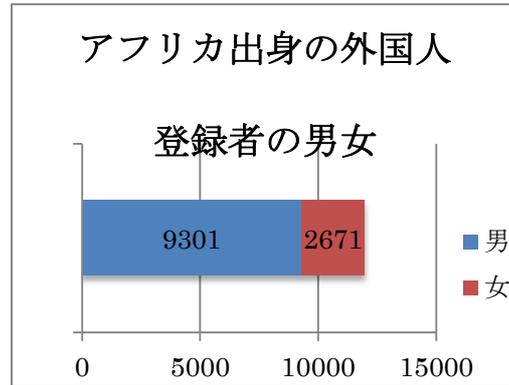
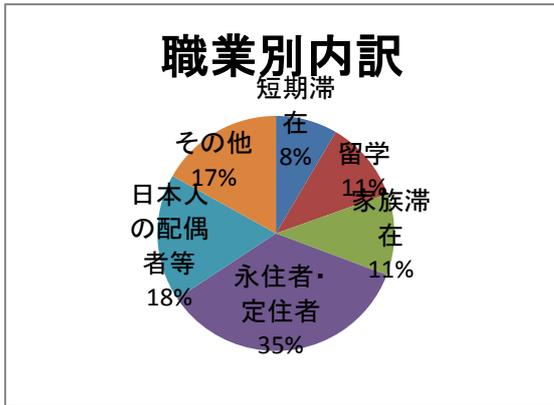
2005年に、アフリカ日本協議会(以下 AJF)理事で、アフリカンキッズのお母さんでもある人からアフリカ出身者のいる家庭のキッズが集まって遊び、彼らのルーツ・アフリカを感じるイベントを開催してはどうかという提案があった。2006年以降、毎年3カ月に1度の頻度でイベントを開催している。近年は、国際結婚家庭以外にも、アフリカに興味のある日本人だけの家族やアフロ系アメリカ出身者のいる家族なども参加している。

## b) 在日アフリカ出身者の統計と現状

2011年に法務省が発表した『世界の統計』では、我が国に滞在するアフリカ出身の外国人登録者数は11972人と報告されている。これは外国人登録者数の約0.5%に相当し、ここ数年その割合に格段大きな変化は見られない。中短期の入国者数の延べ数は、2000年ごろから20000人を超え、観光やビジネスなどを含めたアフリカ―日本間の行き来が一層活発になっているようだ。2011年におけるアフリカ出身の外国人登録者数の男女比は、男性9301人に対して女性2671人と約3倍もの差があり(グラフ3)、30代~40代の働き盛りの男性のアフリカ出身外国人登録者が多いことがうかがえる(グラフ1)。職業別内訳からは、留学や就労などリターンを念頭に置いた来訪者よりも在留者の割合が大きいことがわかる。(職業別内訳からは、留学や就労、就労などリターンを念頭に置いた来訪者よりも在留者の割合が大きいことがわかる(グラフ2)。また、永住者は3691人、永住者の配偶者等が174人となっており、日本人の配偶者がいるのは2092人という。



グラフ1 (出典：登録外国人統計表 国籍(出身地)別年齢・男女別外国人登録者)



グラフ2：左（出典：登録外国人統計表 国籍（出身地）別在留資格（在留目的）別外国人登録者）

グラフ3：右（出典：登録外国人統計表 国籍（出身地）別在留資格（在留目的）別外国人登録者）

### c) 活動の方向性の変化

発足時はキッズも幼稚園～小学校低学年が多く、大人が用意したものを楽しんでもらう企画が多かった。最近では、当初から参加しているキッズも小学校高学年に入り、新規で参加者が入るなど、年齢に幅が出てきたことで、年少と年長のキッズが同時に楽しめる企画出しに工夫が求められるようになった。また、スタッフやサポーターが一方向的に用意した企画ではなく、キッズの主体性を活かし、年長がリーダーとなり、クラブを引っ張っていきけるような企画にしていくべきとの声が多くなったのを受け、今年度、キッズが主体となり企画ミーティングを行い、イベントを実施した。今後とも子どもたち自身が小さい子どもたちを楽しませる形になっていくと考えられる。

## 2. 2013年度を振り返って

評価できる点には、(1)子ども主体の企画を実施できた(2)様々な大学の学生がイベントに参加してくれた(3)継続的な参加者が増えたことなどが挙げられる。近年、子どもたちの成長を受け、幅広い年齢の子どもたちに対応したイベントの実施が課題であり、今年度、そういった活動を行い、活動の幅を広げる第一歩を踏み出した。

一方で、イベントで使用する地域センターの確保に不安が残る。開催の2～3カ月前に行われる予約抽選会に参加するが、取れるか取れないか運次第であるからだ。抽選で漏れてしまった際の代わりになる場所を十分に把握しておかなければ、当日までの準備が遅れ、参加者の確保に支障をきたしてしまうおそれがある。

### 3. 活動報告

2005年に発足したアフリカンキッズクラブのイベントは、通算30回を迎えた。2013年度は第26回から第30回までのイベント開催、それぞれの年にアフリカンフェスタにおいて活動紹介およびアフリカンヘアの編みこみ体験を行った。

#### a) キッズ向けイベント

回	タイトル	実施月
1	アフリカって、どんなところ？ ～親子で参加！話してみよう！わたしのアフリカ・あなたのアフリカ～	2006.1
2	アフリカの動物を探そう！ in 上野動物園	2006.2
3	ピクニック in 日比谷公園	2006.6
4	ドンドコドン！みんなで踊ろうアフリカンダンス！～アフリカンドラムにのせて～	2006.8
5	みんなで楽しむアフリカ・ガーナのわらべ歌	2006.12
6	まるかじりサロン～みんなでアフリカの文化に触れてみよう～	2007.4
7	親子で楽しむ、自由で楽しいアフリカお絵かき教室	2007.8
8	親子でアフリカの文化を楽しもう～コンゴ民主共和国～	2007.12
9	親子アフリカの文化を楽しもう～マリ共和国～	2008.3
10	親子でアフリカ文化を楽しもう～ガーナ共和国～	2008.6
11	ニヤマ・カンテさんと楽しもう！西アフリカの歌とダンス	2008.11
12	親子で行こう！ナイジェリア丸ごと体験学校	2009.2
13	夏休みのイベントだよ！～ワンデー・サマースクール～	2009.8
14	親子でアフリカの文化を楽しもう～コンゴ民主共和国～	2009.11
15	おしゃれなアフリカに触れよう！アフリカの服、アート、食べ物	2010.2
16	キッズのためのミニ音楽会 ジンバブエの楽器ムビラを聴いてみよう！	2010.7
17	サッカー・ワールドカップが開かれた国、南アフリカってどんな国？	2010.11
18	たのしいアフリカに触れよう！日本とアフリカの遊びを	2011.2

	一緒に	
19	セネガルの太鼓サバールにあわせて踊ってみよう！	2011. 8
20	アフリカ 1 周！？クイズに答えてアフリカを旅しちゃおう！？（拓大）	2011. 11
21	ガーナ&アフリカこどものあそび教室 :アフリカンハートであたたかな冬の日	2012. 2
22	タンザニアの現代アート・ティンガティンガ風のぬりえで暑中おみまいをつくろう！教室	2012. 8
23	AKC 初めての泊り会～キッズクラブのお友達と「おやすみ」～	2012. 8
24	寒さなんか吹き飛ばせ！ アフリカ風日本の遊びと西アフリカ大ビンゴ大会（拓大）	2012. 12
25	上野でちょこっとバレンタイン～チョコレート博士になろう～	2013. 2
26	第 1 回キッズ主体イベント企画ミーティング@AJF 事務所&戸塚地域センター	2013. 6
27	みんな友だち。お兄さんお姉さんと遊ぼう！！ ★はじめての Jr. キッズメンバー企画★	2013. 7
28	第 2 回キッズクラブ泊り会@川井キャンプ場（奥多摩）	2013. 8
29	拓殖大学アフリカ研究愛好会企画イベント～レイバンくんに聞いてみよう！ケニアってどんなところ？遊んで答えてケニアを知ろう！！～	2013. 12
30	～動物園の新しい歩き方～人と動物の共生を考えてみよう～	2014. 3

★2012 年度以前の報告書は、AJF ウェブサイト及び以下 URL からご覧いただけます。

●2011-12 年度報告書：[http://www.ajf.gr.jp/lang\\_ja/activities/akc2011-2012.pdf](http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/activities/akc2011-2012.pdf)

●2009-10 年度報告書：[http://www.ajf.gr.jp/lang\\_ja/activities/akc2009-2010.pdf](http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/activities/akc2009-2010.pdf)

## 第 26 回 第 1 回キッズ主体イベント企画ミーティング@AJF 事務所

日時：2013 年 6 月 8・22 日

場所：戸塚地域センター（高田馬場）、AJF 事務所（東上野）

2013 年度の活動の方向性として「子ども達が主体的に活動に参加すること」を目標とした。アフリカンキッズクラブの発足から 7 年が経過し、初期から参加の子どもメンバーは自分達で主体的に考え行動できる年齢となっている。それに伴い活動の内容も変化するべきとの声も多く（2012 年度報告書参照）、その足がかりとして子どもが考えた企画をイベントとして開催することとなった。

### 戸塚地域センター（高田馬場）編

小学高学年のメンバーでイベントの企画会議を行なった。いつもはお母さんと一緒の子ども達も、今日はミーティング会場に行くところからサポートスタッフと待ち合わせをして集まった。口出しする大人がないせいか、使命感のせいか企画の内容は早々に話し合われ親が合流するころには「終わった！終わった！」と自信たっぷりに駆け寄って来た。

どんなイベントになるのかな、と期待して話し合いのまとめを聞いてみると、、、「はい、やり直し！」。その後、話し合いの進め方と本日の会議のゴールを大人にアドバイスしてもらい再度話し合い。今度はやりたいこと、自分達がお手本を示せるゲームの案を出し合い、具体的なイベント内容をイメージしながら役割分担を決めていった。すると漠然とした“イベント”が一機に現実的なものとなり「これはもっと簡単にできるように少しアレンジしよう。」とか「みんなが参加できるようにルールを変えよう。」といった意見がでてきた。一通りのイベントスケジュールを決めて本日のミーティングは終了。

かなり集中したせいか「疲れたー。」と言いつつも「今度の準備とリハーサルまでに宿題忘れないでね！」とお互いに確認しあっていた。普段はそれぞれの地域に住んで会う機会の少ないメンバーが顔を合わせてイベントの企画を話し合うという密度の濃い時間が過ごせたようだ。学校の友達とは違った感覚で企画作りに挑んでいるようだった。

### AJF 事務所内（上野）編

前回の話し合いで決まったことをもとに、イベント当日に必要な道具の事前準備とリハーサルを行った。イベントに使う物を分担して作成し終わると、リハーサルの開始。イベントの司会進行から自分達の発表内容をスケジュール通りやってみる。

途中「ゲームの説明が分かりづらい。」「絵や写真をもっと上手く利用したほうがわかりやすい。」などの意見がだされ、それぞれがイベント当日を意識したリハーサルを行った。

イベント当日までまだ改善点があると言って、各自自宅でも練習をして本番へ向けて準備していた。

## 第 27 回 みんな友だち。お兄さんお姉さんと遊ぼう！！ ★はじめての Jr. キッズメンバー企画★

日時：2013 年 7 月 15 日

場所：早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）

いよいよ初めての子ども企画のイベント当日。少し早めに会場に行き最後の打ち合わせ。どんな人が来てくれるのかドキドキしながら開始時間を待つ。思ったより年齢の高い参加者を見て、急遽準備していたプランを変更することになった。しかし事前の準備のかいあって臨機応変に対応できた。

イベントを通してチーム対抗戦とし、それぞれの Jr. キッズメンバーがチームのリーダーとなり対戦開始！まず※1 “マンカラ” と言われるアフリカ各地でみられるボードゲームを行った。

1 対 1 の小石を使った戦略ゲームは子どもには難しいかと思っただが、学校の学童保育で経験している子ども多く（日本名はチャリン）、大人顔負けの勝ちっぷりを見せてくれた子もいた。大人から子どもまで勝負に熱くなり、それと同時に周りの野次も盛んになってゲームをしていない人もチームメンバーと対戦している一体感があった。



アフリカの遊びに夢中！



子どもたちの発表

後半は「アフリカすごろくゲーム」を行った。よくキャンプの時にやるオリエンテーリングをもとにアフリカと組み合わせた Jr. キッズメンバーのオリジナルゲーム。チームメンバーでサイコロの目が出たアフリカの国に行き出題される問題を解くと次へ進むチャンスももらえるというルールで、最後の問題を解いて早く日本行きチケットを手にしたチームの勝ちとなる。事前に Jr. キッズが出題する問題を含む各国の発表を行い、出題者となることでアフリカについて楽しみながら学べるという工夫をしていた。チームワークと学習だけではゲームは進まず、運も加わることで最後まで勝負の見えない展開だった。

今回はじめて子どもが企画から運営までを行うイベントとなった。最初は気が進まない様子で、すぐ大人に頼ろうとする姿勢を見せていた子どもが、話し合いを通してより積極的になり最後には自分達でイベン

トをやりきったという達成感と次回への意欲が見られるようになった。子どもの主体性を取り入れた初めての試みだったが、今後の活動を担っていける頼もしさを感じた。

※ 1. マンカラとは

アフリカ・中近東などで古くから遊ばれているボードゲームの総称で国や地域によって呼び方やボードの穴の数、ルールなど様々である。石と穴があればできるゲームで特に専用の道具を必要としない。西アフリカでは Oware、Wari、Ayo などと呼ばれていて、大人から子どもまでよく遊ばれているゲームである。

## 第 28 回 第 2 回キッズクラブお泊まり会@川井キャンプ場（奥多摩）

日時：2013 年 8 月 17-18 日

場所：川井キャンプ場（奥多摩）

詳細報告書：[http://www.ajf.gr.jp/lang\\_ja/activities/2013summer\\_camp.pdf](http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/activities/2013summer_camp.pdf)

去年に引き続き、今年も川井キャンプ場でお泊まり会を行った。アフリカにルーツを持つ同年代のキッズが「同じ釜の飯を食い、寝る前に語り、生活体験を共にする」ことで仲を深めてもらうとともに、お母さん方の繋がりの場ともなることを目的とし、今年度は 2 回目の開催となった。



ログハウスにて



みんなでスイカ割り

初日、河原に着くとさっそくマスのつかみ取りにチャレンジ。生きた魚を捕まえるという慣れない試みに、最初、子どもたちは悪戦苦闘。ヌルヌルとしたマスの手触りに最初は抵抗を見せていた子どもたちも徐々に慣れ始め、最後は無事みんながマスを捕獲。日常生活では滅多にできない体験に子どもたちは大はしゃぎだった。夕食ではガーナのシチューを作ったり、バーベキューで昼に捕まえたマスを焼いて食べた。捕まえたマスを自分でさばいて食べた子どもは「自分で調理した魚はいつもより美味しい」とのこと。夜になり程よくテンションも落ち着いた頃合いにアフリカの昔話をした。『賢いうさぎ』の話は、なかなか結末を当てられる人はいなかったが、アフリカの話はやはり日本の昔話とは色んな面で異なることもあったが、「良い行いをしていれば、報われる」という点で共通していた。子どもたちに理解してもらえたかな？



水遊び！！

2日目、朝食にご飯、野菜、ビーズサンドを食べ、この日も子どもたちは元気に川遊び。この間に川でスイカを冷やしお昼にはお楽しみのスイカ割り。目隠しをして、ぐるっと回って、さあスイカ目がけてスタートだ！「こっちこっち！あとちょっとだけ左！よし！そこだ！」「あ～かすただけか・・・」足元も覚束ないから、難しそうだった。それでもみんな、リベンジも果たして見事大当たり。みんなで食べたスイカもとっても美味しかった。

最後にみんなで写真を撮り解散。今年は去年以上の参加者が集まった。

第 29 回 レイバンくんに聞いてみよう！ケニアってどんなところ？ 遊んで答えてケニアを知ろう！！

(拓殖大学アフリカ研究愛好会企画イベント)

日時：2013 年 12 月 22 日

場 所：戸塚地域センター7 階 多目的ホール

拓殖大学アフリカ研究愛好会(以下アフ研)運営のもと、ケニア人留学生のレイバンくんと創価大学パンアフリカ友好会(以下パンアフ)のメンバーとともに、レイバンくんのケニアでの日常生活について学んだり、創価大学のOB/OGがガーナ留学の際に習得してきた、現地の伝統的なダンスを踊るなどして、イベントを盛り上げた。



ケニアの物の運び方に挑戦！



みんなでレイバンくんの話を聞いています

例年、このイベントではアフ研が単独で運営を行っていたが、より多くのアフリカに関心のある学生と交流し、子どもたちに自分たちのルーツを感じてもらえるイベントを実施したいというメンバーの声から今回のイベント実施に至った。



楽しかったね～！！

クリスマスの時期ということもあり、イベントの最後にサンタさんの格好をしたレイバンくんからプレゼントをもらい子どもたちは大喜び。

★拓殖大学アフリカ研究愛好会(アフ研)について

2004年に設立された学生団体。近年は毎年度第2回イベントを担当し、企画・運営に携わる。企画した以外のイベントでも、サポーターとしてキッズクラブに協力している。

▼アフ研が企画したイベント

2012年12月8日 ~寒さなんか吹き飛ばせ!アフリカ風日本の遊びと西アフリカ大ビンゴ大会

2011年11月23日 アフリカ1周!?クイズに答えてアフリカを旅しちゃおう!?

2010年11月21日 「サッカー・ワールドカップが開かれた国、南アフリカってどんな国?」

### 第 30 回 ～動物園の新しい歩き方～人と動物の共生を考えてみよう～

日時：2014年3月2日

場所：上野動物園、AJF 事務所第 29 回

今年度最後のキッズクラブのイベントで上野動物園に行ってきた。

今回は上野動物園で動物たちを見て、動物たちと人間の付き合い方、共生のあり方を考えようという企画だ。生憎の空模様でしたがたくさん子ども達が集まってくれた。



何が見えるかな？



なんだこりゃ！新たな発見

普段目にする機会のない動物たちを見て、触って、子ども達も大喜びだった。



みんなでお話を聴きました

このように上野動物園の動物は私たちを楽しませてくれたが、所変わってアフリカではゾウなどの野生動物が人間の住むところまでやってきて、畑を荒らしたり、直接人間に危害を加えたりするなどの問題があるそうだ。現地の人は身を守る為に様々な手段で動物たちを追い出そうと試みる。子どもたちは自分たちとアフリカの人たちの間の動物への向き合い方の違いに驚きを隠せないようだった。

#### 4. 在日アフリカ人家族の生活を考える会

「在日アフリカ人家族の生活を考える会」は、「子どもとアフリカ」を対象とするアフリカンキッズクラブから派生した、日本でアフリカにルーツを持つ家族にフォーカスした取り組み。アフリカと日本などにルーツを持つ子どもたちの日本やアフリカでの子育てをどうすれば良いか、子どもの背景にある在日アフリカ人のお父さんお母さん、日本人のお父さんお母さんは日々どのようなことを抱えているのか、アフリカンキッズクラブの大人版として、取り巻く問題にポジティブに取り組み社会に発信している。

##### b) 在日アフリカ人家族の生活を考える会

回	タイトル	開催月
1	日本に嫁いで9年 ザンビアと日本の子育て奮闘記	2007.6
2	セネガル人お父さんから聞く、日本の子育て	2007.11
3	セネガル子育てレポート	2009.7
4	南アと日本、生活と学校を体験する	2009.9
5	在日アフリカ人コミュニティへの HIV/AIDS 予防啓発活動の取り組み	2010.7
6	結婚、移住してガーナを生きる女性たち	2010.9
7	アフリカ系・外国系家族のリスクマネジメント座談会～大震災を経験して～	2011.7
8	新・在留管理制度がはじまるとどうなるの？ ～弁護士との相談会～	2012.7
9	クリスマス・クッキングパーティー～AKC 初？キッズが料理にチャレンジ！～	2012.12
10	在日アフリカ人家族の生活を考える会 ：ハーグ条約締結に向けた動向と家族・子どもの権利について学ぶ	2013.11

## 第10回 在日アフリカ人家族の生活を考える会：ハーグ条約締結に向けた動向と家族・子どもの権利について学ぶ

日時：2013年11月24日

場所：JICA 地球広場 6階 セミナールーム 600

今回は弁護士の大谷先生にハーグ条約についての話を聞いた。

ここでいう「ハーグ条約」とは、正式には「国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約」といい、一方の親が国境を越えて子を「連れ去った」場合、この子をもといた国に即時に返還させることを、国同士が約束するものである。

コトバンクによれば、親権・監護権(養育権)を持つ親のもとからその同意なくして他の親が16歳未満の子を、国境を越えて連れ去りまたは隠匿をした時、両国がこの条約に加盟していれば、子を奪われた親はその国の政府を通じて相手国に子の返還や面会を請求できる。両親の離婚などによって生じる「子どもの国境を越えた移動」そのものが子どもの利益に反するものであり、子どもを養育する「監護権」の手続きは奪取以前の常居所地であった国で行われるべきだとの考えに基づいて、子は移動以前の常居所地であった国へ帰還させるのが原則である。また、別れて暮らす親子が面会する権利の実現を目指し、「国境を越えて子供を不法に連れ去る、あるいは留め置くことの悪影響から子供を守る」ことを目的としている。

この条約は主に西欧諸国の加盟が主であった。その理由として西洋諸国とその他地域とでは両親の離婚に関する考え方の違いなどが挙げられる。しかし現在日本は、2014年4月1日の条約締結に向けて準備を進めている。

注)上記は <http://kotobank.jp/word/%E3%83%8F%E3%83%BC%E3%82%B0%E6%9D%A1%E7%B4%84> を参考

学習会はまず大谷先生からは条約推進派の立場から、ハーグ条約の内容と発効後の対応の可能性について説明があり質疑応答となった。(ハーグ条約の日本加盟は賛否両論ある)

印象に残っている内容としては、

- ・ 国境をまたぐ子供の連れ去りは国際結婚に関係なく適用される。(日本人同士の結婚も然り)
- ・ 国籍や在留資格には関係なく、子供の常居所地が基準となる。
- ・ 条約は子の人権を尊重するために法の下で親に解決する機会を与え、離婚後の不利益が双方・子供に及ばないように話し合う場と機会を与えるもの。6ヶ月以内に結論を出さなければならない。
- ・ 子供が自分の意思を伝えられる年齢の場合、子供の意向を確認する。
- ・ 必ずしも外国の法律に詳しくない当事者同士が各国の法律の専門家を交えて解決を促す機会がもてる。裁判(調停)をする国では外国人に不利な状況になるためそれを回避する手助けになる。
- ・ 法的な解決をすることで、子供の将来の選択幅を維持できる。(連れ去った親は“誘拐者”扱いとなるため元の国への入国は難しい)

- ・ 欧米主導の条約で加盟国も欧米が中心。アフリカは現在加盟は9カ国、中東は2カ国となっている。
- ・ 国によって親権・監護権の権限に違いがあるため（欧米は共同親権、日本は片親特に母親の親権が強い。またイスラム諸国は父親の親権が強い）それぞれの国内の家族法・移民法・刑事法との関わりも出てくる。
- ・ イスラム諸国の条約への関心は低い。実際の連れ去りが米国からエジプト・パキスタンへの場合で実例が蓄積されているため、日本はその実例を基に対処する方法がある。
- ・ 日本では条約の下での運用実例がないため他国の実例を基に法曹界の条約に対する意識の底上げが必要である。

学習会を終えての感想は、メディアでは子供の奪取と親の立場やDVの被害のみがクローズアップされていたが、それは親側からみた側面にすぎない。子供を基準に考えるのであれば対等な立場で法の下で解決を図るのはお互い納得のいく方法ではないかと思った。しかし判決を下す裁判官の外国人への偏見（自国びいき）により、子供の将来を左右する事態とならないかが、親の立場からすればいちばんの懸念だ。この学習会を機に子供の将来を家族で話し合うよい機会になった。

※日本における「国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約（ハーグ条約）」の相談先、運用当局としては外務省が中央当局となっている。詳しい内容は外務省ホームページ内「ハーグ条約」に記載されている。

## 5, 2014年度の方角性

小学校低学年から高学年まで年齢の幅が広がってきた現状がある。子どもたちの幅広い年齢層に対応した運営をしていく必要がある。今年度、第一弾として高学年の子ども主体の企画が実施され、彼らが先頭に立って低学年の子どもたちをもてなすような形をとったが、引き続き2014年度もそのような高学年にも対応する、キッズ主体の企画を実施したい。社会に対してキッズの存在アピールや、アフリカの負のイメージ払拭を目的とする。具体的には以下の企画が検討されている。

- ・ 第3回お泊まり会(2014年7月、奥多摩・川井キャンプ場)
- ・ グローバルフェスタとの共同企画
- ・ 拓殖大学文化祭のアフ研企画でキッズコーナーの用意、模擬店へのキッズ参加
- ・ 子供主体企画、併せて事前打ち合わせ(サポーターの送迎付で、保護者の負担を減らす)

編集

拓殖大学アフリカ研究愛好会 牧野広太・中島絹絵

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

(AJF) 〒110—0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

TEL 03-3834-6902 / FAX 03-3834-6903

ホームページ:<http://www.ajf.gr.jp> e-mail:[info@ajf.gr.jp](mailto:info@ajf.gr.jp)

2014年3月31日発行